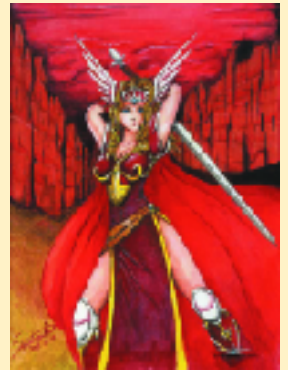




会報

日本イラストレーター協会では、日本全国あるいは世界各地で活躍している皆様に JIA の活動を様々な形でお知らせしています。今回は PDF の形式の会報で、新年度の理事をご紹介します。



- ※はじめに
- 理事挨拶 (五十音順)
- 大月かずみ (大阪府)
- 大橋紀子 (東京都)
- おじゃらいか (東京都)
- 開楽智治 (大阪府)
- 栗月那未 (神奈川県)
- 新倉規充 (神奈川県)
- 藤田あや子 (長野県)
- 若林やすと (神奈川県)
- 渡辺悟志 (茨城県)
- 渡辺新吉 (東京都)
- 理事長挨拶
- 蟹江隆広 (東京都)
- 二〇〇七年度会計報告
- JIAの歩み
- 二〇〇八年のイベント



理事 大月かずみ（大阪府）

日本イラストレーター協会の皆様、はじめまして。これと言った劇的な事はございませんが、自己紹介がてら私の経歴を紹介させていただきます。

思い起こせば幼少の頃から絵を描くのが好きで、「何かしらそんな仕事につきたいな」と、おぼろげに夢見ておりました。大阪市立工芸高校デザイン科卒業後、「兔に角実践第一っ！」と思い、まずはテキスタイルデザインを主に手掛けているデザイン事務所就職しました。あの頃はパソコンで何でもこなして行く時代では無く、全て手描きでした。

朝から終電までパターン柄のレイアウトに試行錯誤しつつ、鉛筆片手に下書きしたり糊付けしたりポスターカラー使用で色作りで追われつつアナログ一直線の毎日でした。ダイエツトには最適な職場で、何もせずとも1年間で8キロ減に成功でした(笑)

その後、アールヌーボーやアールデコに惹かれ、ステンドグラス職人に転職。デザインから制作、時には取り付けまでと、若干腕っ節が強くなりました。

その2年後、雑貨や服飾のファンシーキャラクターを手懸けるデザイン事務所にて7年間お世話になり、キャラクター描きつつ、市場のキャラクターにも目を光らして毎日でした。

このゆったりとマンネリ化した7年後に、「このままでいいのか？」と言った気持ちでドンドン湧いてきて、何の当ても無



いままに「もつと自由にイラスト描きたい。3年もがいて、にっちもさっちも行かない様ならまた考えよう」と、決意して今に至ります。

しかし現状は単品のお仕事ばかりで、正直イラストレーター一本では全く生計が成り立っておりません。元来呑気な性質ですが、さあ、どうしたものかと考えあぐねていた頃にJIAAに出会いました。

フリーランスでの活動は孤独で横の繋がりが乏しい為、何かしらのトラブルに直面した際、対処法に思い悩む事も多々あると思います。私は大阪在住の為、滅多に参加出来ませんが、交流会等で第1線でバリバリやってらっしゃる方々とお会い出来、助言頂いたり、色々プラスになるお話が伺えました。

これからは今までのような交流会もありつつ、個々では難しいようなビジネスチャンスに繋がればとっ！イラストレーターは資格いらずで名乗ったもの勝ちですが、その分プロ意識を常に持ちつつ、スキル高めていけたらと！

私個人では大したお役には立てそうにございませぬが、皆様にも助けて頂きつつ御一緒に頑張っていけたら、ありがたいです。

一年間よろしくお願ひ致します。



理事 大橋紀子（東京都）

日本イラストレーター協会の皆さま、こんにちは。大橋です。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年も、JIAAの活動や交流会を、さまざまに楽しませていただきました。ギヤラリー巡り付き新年会、代々木公園のお花見、おじゃら画廊&楽しい花火見物、デザインフェスタ参加・・・まことに四季折々、刺激に満ちて学ぶ所多し、とても楽しい思い出をたくさん作ることができました。

今年もまたお花見に参加させて頂いたのですが、お持ち寄りの美味しさ、解放感溢れるお喋りの楽しさに加え、桜吹雪降りしきる中、他の会員の方の作品ファイルに感銘を受けたことが印象深かったです。

初めてお目にかかり名刺を交換させて頂いた直後から、すぐに楽しいお喋りが始まり、にぎやかに笑い転げる内にも何かしら得るものがある・・・それがJIAAの交流会の良さだと思えます。多くの皆さまにお目にかかれるのを楽しみにしています。

さて、昨年に続き、私の表現履歴を少々書かせて頂くと思えます。表現をなさる多くの方がそうなのでしょうが、思えば私の半生は、「誰かの作品に出逢う衝撃を受ける。魅せられる。取り憑かれる。自分でも猛烈に作ってみたくなる。やってみる」この繰り返しだったような気がします。

例えば・・・



ベルメールと四谷シモンの人形に衝撃を受け、自分でも人形を作ってみる。エルンストのカラージュに魅せられ、図書館のザラザラな白黒コピー機で何十枚と素材を作り、明け方まで切った貼ったりに励む。(七十年代のことです)

コーネルの箱に惹かれ自分でも作りたくなり、ガラクタを集めてポツクスアートのトライです。
ブラザーズ・クウエイの『ストリート・オブ・クロコダイル』に衝撃を受け、続けてシユバンクマイエルにも夢中になり、中古の8ミリカメラを手に入れ自分でも人形を動かしてみる。
・・・などなどです。

その時々々の興味の赴くままあれこれやっていたように思いますが、それら全てが今に繋がっているようでもあります。

二〇〇〇年代以降パソコンとフォトショップを使うようになってからは、カラージュもアニメーションも手軽にできるようになりました。描いたものを動かしてみるのは、いつもわくわくする作業です。GIFアイコンを作るときも、アニメーションを付ける時のわくわく感を楽しみに画像を作っています。

様々な条件や制約の仕事にトライするうちに、自分の表現方法に思ってもみなかったような可能性を発見できることは、とても嬉しいことです。



理事 おじやらりか
(東京都)

去年、突然、画廊をオープンすることになった。それは、自分にとっても驚くべき人生の転機であった。初心者マークをつけ、試行錯誤という状態は、まだ続きそうである。

区内には貸し画廊が一軒もないし、多少の収益源にもなればという軽い気持ちでスタートしたというのが正しい。

実際運営を始めて、イロイロな方の多様な作品が集まるというのは素晴らしい事だということが理解できた。1人の力より、何人かの作品の力を合わせて集客を行うということである。見にきたほうは、ある程度の作品の点数がないと物足りないと感じるし、イロイロな作品を見たいのだ。

私は収集家でもあるので、いくつものギャラリーを定期的に回っている。当然に、作品を買うために回る。

今までは、イラストやグラフィックデザインのものが入ると、銅版画の小品を一枚買うことにしている。結構な額を注ぎ込んでいたと思う。最近では、ギャラリーの運営費と広告費の支払いのため、収集活動が実質停止しているのが、最大のストレスである。

とはいいながら、展覧会を見に行くときには、今でも必ず買う気で回っている。自らが貸し画廊を回り、目をキラキラとさせ、自分のギャラリーの出版作家を探しに行ったりはしない。笑。残念なことには、買いたいという作品は、そんなには、この世に存在しない。



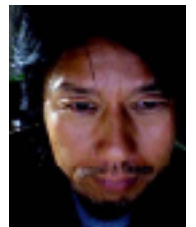
私に限らず、収集家というのは、常に買おう気で展覧会を回っている。それは、合コンに出かけるのに似ている。新しい作家さんや、作品との出会いにワクワクしに行くのである。目が肥えた収集家の心を動かすということは大変な話でもあり、一度動かしてしまえば(作家の頑張りが伝われば)また見てくださる(買ってくれるかも)ということである。

画廊業を始めた話と、収集の話がゴツチャになってしまったが、作家さんのために画廊ができることは、そんなに多くないという事は理解できてきた。

会長さんともお話して、インターナショナル・イラストレーション・コンペティションは、おじやら画廊が窓口となり、入選作品の展示も行うという話に決まる。頑張った人に画廊賞も企画する。意欲的な作品が勝手に集まってくるというものは、収集家としても、画廊としても、理想的である。

また、短期的な展示というのには、未だ疑問を抱いてはいるが、作品ファイルを無料でお預かりし、閲覧できる状態にするというのは、作家さんにとっては価値があることだと思いい、場所を提供することに決めた。

JIAの作家さんには、ポストカードの無料提供にご協力頂いており、深く感謝しております。お陰様で大好評です。



理事 開楽智治
(大阪府)

みなさん、こんにちは。開楽智治 かいらくともはるぞいいます。

なぜ、ボクがJIAに入会させていたのだかといいますが、何かがありそう起こりそう、という予感がしたからです。

そして、今回、理事に選んでいただきまして、やはり起こりました。ありがとうございます。大阪に住んでいても選ばれるなんて、びっくりしました。

でも、実はまだJIAのことがよくわかってなくて、とほほ状態です。今のところ、何をしたらいいのかわからないので、とりあえず何かをやってみようとは思ってはいるのでしょうか。

最近、アクリルで絵を描くのが、自分自身の中で流行っています。ちょっと前まで水彩で描くのがメインでしたけど、今はアクリルですね。

でも、やっぱり水彩の味は忘れられないという気持ちも今ではキープしていますので、やっぱりどちらも自分自身の中では流行なのかもしれないですね。

一番大事なことは、画材よりも何を描くか、ということだと思いますので、画材にとらわれることなく、描きたい世界を描いていきたいですね。

あと、アニメーションの仕事もやってあります。主に、携帯の待ち受けに使うFLASHアニメです。これも面白い！なかなか面白い！



許されることなら、できれば東京に出て創作活動をしてみたいとは考えております。

あと、セカンドライフでのアバター服を作ったりもして、お小遣いをちょびつとだけ稼いでいる状態ですね。こんな人間ですが、みなさまが楽しく、明るく過ごされることを期待しております。

そつだ！
みなさん！JIAで、どんどん盛り上がっていきましよう！
すばらしい企画があれば、どんどん出してください、お待ちしております。

趣味ですが、いろいろあります。まずはサッカー観戦。リーグではセレッソ大阪サポーターをやっています。このチームや、日本代表が負けた後はしばらく落ち込んで、制作に集中できなくなります。

ピリヤード。趣味とはいえず、もう二年くらいやってませんねー。
カラオケ。ミスチルとか、沢田研二とか、何とかがよく歌います。裏声が得意なんですよ。

もちろん、絵を描くことも大好きです。他にもいろいろありますが、よろしくお願ひします。



理事 雲月那未
(神奈川県)

JIA会員の皆様、こんにちは。二期目の理事就任となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年は十一月に日本イラストレーター協会としてデザインフェスタに参加いたしました。ほぼ半年間の準備期間を経ての参戦、当日まで不安でいっぱいでしたが、参加者皆様の御協力、そして諸事情で参加を見送られた方々からも多数励ましをいただき、大変有意義なイベントとなりました。この場をお借りいたしまして、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

しかしながら、沢山の課題が出たことも事実でした。ブースの位置、広さ、インパクトやアピール力等ではかなり会場内の雰囲気にかけてしまった感がありました。今回は遠方にお住まいの方々にも気軽に参加していただけたらという主旨の下、ポストカードという小さな作品に限定させていただきました。おかげさまで多数の方々のご参加をいただき、壁面いっぱい力作が並びましたが、見せるという点においてかなり弱かったのが大きな反省点となりました。

どの作品をとってもその一つ一つは会場内のほかのブースになら引けをとらないものであったと自負しておりますが、イベント主催側として、構成力の甘さ、なにより勉強不足が大きく露呈した形となりました。

開催後にはアンケートを実施させていただきましたが、その中で多くの方々から自分を感じたと同じ感想を共有されてお



りました。おかげで次はどこからスタートすればよいかはつきり致しましたが今後どのような形をとっていくのかが課題となりそうです。現実問題として、あのブースの大きさと高額の場所代がかかることや、自分たちのブースの位置がぎりぎりまでわからないこと、会場にお手伝いに来てくださった方は目にされたと思っております。釘も打てないほど薄いベニヤ板の壁。しかもこの壁、ぐらぐらで安定感がありません。

今後大きな作品で参加することを考えた場合、これらの諸問題をどうクリアしていくのかなど課題は多くあります。しかしこれらの問題がはつきりしたこと、今後デザインフェスタだけでなく、処々様々なイベントに対する考え方、着眼点そしてそこから進化するためのマテリアルは手にしたと思っております。

今年は私個人としては、デザインフェスタの主催は考えておりません。これら二つのことを踏まえた上での妙案がまだ出てこないからです。

今年は別の形で、なにか出来ないかと考えております。やる側も見る側も楽しめるような企画をなにか一つ、発案できたらと思っております。その折にはまた皆様のお知恵を是非にも拝借いたしました。お願いに回るかと思っておりますので、どうぞお力をお貸しください。今年も一年、どうぞよろしくお願いいたします。



理事 新倉規充
(神奈川県)

新倉規充と申します。現在、神奈川県葉山町というところに住んでいます。去年の春ごろまでは、隣の横須賀市というところに住んでいました。横須賀も葉山も海に面した町です。横須賀の実家からは海が臨めましたし、今住んでいる葉山の家も数分歩くと海が見えてきます。どちらかといえばのどかなところで生まれ育ち、今もなお静かなところに住んでいます。

小さな頃から絵を描くことに興味があったようです。幼稚園の頃、クリスマスマスの時期だったと思うのですが、折り紙で折ったサンタクロースの顔にクレヨンで目鼻を描きました。ほつたをピンク色で塗り、指先でこするとほつたに似つかわしく色がぼやけることに得意になりました。片方のほつたはうまくぼやけたのに、もう片方がうまくぼやけなかったのが悔しかったのを覚えています。小学生のころは、漫画家になることを夢見て毎日を過ごしていました。本当に毎日、そんなことを考えていたように思います。当然、教科書やノートは落書きだらけでした。週刊漫画誌のキャラクターをよく描いていました。

絵を描くうえで、早くも壁にぶつかっていたのは中学生の頃です。自分は絵がうまいんだと思つて過ごしていた小学生時代でしたが、どうやらそうではないらしいということが気づき始めたのです。この頃は漫画に対する興味は薄れ、かわりにテレビで見た劇場用長編アニメーションにいたく感動し、興味は次第にアニメーションに移っていききました。また同時に読書のおもしろさに目覚め、昼休みはもっぱら図書室で過ごすようになりました。高校生になつて文学熱はさらに高まり、

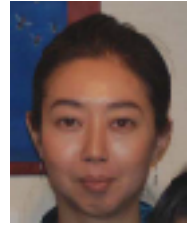


自分で小説を書いたり、仲間と文芸冊子を作ったりしていました。しかし一方では、アニメーション制作に対する興味も強くなり、小説とアニメーションというふたつの思いをどう扱っていくかに悩んでいました。

高校卒業後は、大学の文学部に進みました。小説創作のクラスがあったので、そこに入ろうと思つたのです。1年生のとき創作の授業を受けたのですが、妙なプライドを持っていました。結局小説創作のクラスには進みませんでした。それまでのクラスに進もうかと考えた末、選んだのが美術史でした。アニメーションに興味を持ちながら、美術系の学校には進まず文学部に入ったのですが、やはり絵の勉強の必要性を感じていました。文学部の中で一番それに近いところが、美術史だったので。美術史の勉強をしながら、小説を読み創作を試みるという生活を送りました。

アニメーション制作をしたいとも思つてはいたのですが、制作会社に入るには十分な画力がなく、年齢制限にもひっかかり始めていました。私はこのころになつて、うーむと腕を組みました。これから先、どうしていいこう？

大学卒業後は、就職することもなくフリーター生活が始まりました。JIAと出会つたのは、その数年後です。ここでは、会員の皆様と各種イベントや交流会を通じて大きな励ましを頂いております。JIAが皆様にとって、人とのつながりの貴重な場になることを願っています。



理事 藤田あや子
(長野県)

JIAのみなさま、こんにちは。本年度理事を勤めさせていただきます藤田あや子と申します。

昨年に引き続き理事を拝命させていただき、身に余る光栄に存じます。

イラストレーター協会に在籍させていただいて三年余りになりますが、年ごとに会員数も増え、活動の場も多様化してきたこと会員の一人として大変嬉しく思っています。

昨年は自身の個展の準備に時間をとられ、イラストレーター協会の活動を一緒にさせていただく機会が少なかったため、名前だけの理事に終わってしまいました。

本年度自分に何ができるかわかりませんが、協会を盛り上げていくべく、せめて活動に参加させていただきたいと思っています。

簡単に経歴ですが、桑沢デザイン研究所卒業、その後製靴会社に勤務。結婚、出産を経て、二〇〇二年にフリーのイラストレーターとして活動を始めました。

当初はイラストだけを描いていたのですが、友人に勧められてフェルトで雑貨を作るようになりました。最近では作品の半数以上がフェルトの羊毛雑貨です。

桑沢では工業デザインを専攻したことあつてか相性が良いような気がします。今後どちらに留まることなく製作していきたいと思っています。



また新しいことも取り入れていければと思っています。

私の少ない経験から一つ書かせていただきたいと思えます。このところ個展の開催、グループ展の企画にも参加させていただき、作品が人前に露出されることが多くなってきました。

こういった場面では反応や意見を直に見聞きすることができず、例えば厳しい意見であっても心からの助言や、具体的な意見はもちろん有り難く素直に受け入れることができます。

しかしそういう人ばかりではありません。内容のない暴言を何気なく言い捨てていく人もいます。私自身も悔しい思いをしたことがあります。

そんな時でも、腹を立てずに、落ち込まずに自信を持って自分の道を進んで欲しいと思います。(私自身も進んで行くと思っています)

そんな場面も回をこなすことに気にならなくなっていくのはよいなあと思います。これも貴重な体験の筈です。また意見を言う側であっても、創造者として自分の言葉に責任を持つべきだと考えます。

最後になりましたが理事の皆様、協会の皆様、本年もよろしくお願ひします。



理事 若林やすと
(神奈川県)

私はイラストレータ兼看板業を営んでいますので、屋外で絵を描くということは何回か経験しています。今回はそのことについて書いてみようと思います。何かの参考になれば幸いです。

画像にあげたのは、もう二十年近く前の作品ですが、新築のアパートの壁面に何か描いてくれという、ちよつと変わった発注だったのでよく覚えていいます。広告ではないので何か無難な模様のような物が良いかと最初は思ったのですが、それでは面白くないだろうと、古代の壁画みたいな物をイメージしてデザインしました。

使用した塗料は、大同塗料の「ロイヤルカラー」。塗料用シンナーで希釈するいわゆるペンキの類ですが、普通の物に比べて、発色、対候性、共に優れた乾燥時間が速いのも特徴です(二十度で約一時間)筆で塗って数十秒すると、塗料の伸びがなくなるので、ボカシなどをかける場合には、その間にやらなければなりません。それとこれはペンキ類一般に言えることですが、完全に乾燥する前に重ね塗りすると、下の塗料がはく離してくるので要注意です。最近はいちやす水性の壁画用塗料もありますが、少しでも「持ち」がいいものとなると、今でもこの塗料を使っています。

屋外で描く絵は大きい場合が多いですが、私が経験した最も大きい物は、花博覧会のパビリオンに描いた壁画です。横二十メートル、高さ八メートル位で、もちろん足場を組んで描きました。普通、絵を描いている時には、細部を描いて全



体の調子を見ることがを繰り返します。それが机の上で描けるサイズの物なら、ちよつと顔を離せばいいし、イーゼルにキャンパスなら2、3歩下がればいいでしょう。ところが、この壁画の場合、全体の調子を見るためには、足場を降りて十数メートル離れなければなりません。その繰り返して、さらにかなり重さの塗料を持つての移動もあります。大きい壁画を描くには結構体力が重要だと思ひ知らされました。

最近では、大型出力機の普及により、手描きで壁画を描くということはほとんど無くなりましたが、そのかわり今まで培ったイラストの技術を生かせるようになってきました。例えばペインターで作った画像を容易に、屋外広告物に出力できるので、以前は出来なかった表現法が可能になりました。

日本イラストレーター協会に参加して多くの方々の作品を直接目にする、イラストの表現方法は千差万別であることに改めて気付かされます。そこで受けた刺激を糧にして、自分の表現の幅がさらに広がればと思っています。

このたび理事に推薦していただき、これから1年間勤めさせていただき、私が、例えば協会の催し物の時のPOP類の製作などに、私の経験を生かしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



理事 渡辺悟志
(茨城県)

協会の皆様こんにちは。
本年度の理事を拝命致しました渡辺悟志と申します。

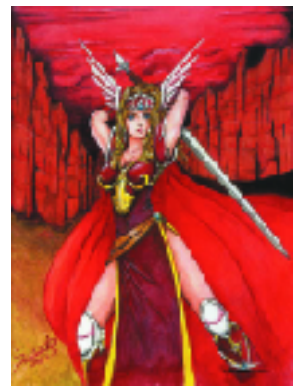
私は神話などをモチーフにしたファンタジー系のイラストをメインに描いておりますがノベルティグッズなどのデザイン、イラストレーターを使った印刷物の版下制作もやっております。

技法はアクリル水彩での手描きからエンプラシ、フォトショップやイラストレーターを使ったデジタルなど用途や表現方法に応じて使い分けています。特にデザイン系はパスを必要とすることがほとんどですので手描きで行う事はほとんどありません。

前職が飛行機の整備をやっていたという異色の経歴を持っていますが、こちらの紹介での個性を出す為の一助になってくれています。昔から多趣味なところもあり、おまけに凝り性なものである程度深く探求しないと気が済まない性分のおかげで多方面に築いた人脈に助けられているのが今の状況です。

さまざまな経験をしておくことで自分の中に多くの引き出しが出来作品を作る時のイメージを膨らませてくれると思います。

イラストレーターという職業は孤独で地味な作業の連続ですが、文献などの資料では伝わらない情報は山ほどあり、実際に自分の目で耳で感じなければ分からないことは多いものです。作品の中にはその作者のバックボーンが見えてくるも



ので、それが深みや厚みとして伝わってくるのだと思います。

諸先輩方を差し置いて偉そうな事を言ってしまうましたが、私自身もまだそんなに経験豊富という訳でもなく、日々新しい発見の連続です。きつと一生かかっても満ち足りることはないのだろうと思いますが、昨日より今日が少しでも自分が前進できているのだと実感できるような生き方、作品作りができればと思っています。

イラストレーター協会に参加する事で今まで知らなかったさまざまな人生を送ってきた仲間との交流が持てることは創作活動においても何よりの刺激となります。他の会員の皆さんの作品を見ることや交流会での何気ない雑談の中にも様々な情報があり、有意義な時間を得る事ができます。

メルマガやコミュニケーションサイトなども多利用して交流を深めて新しい情報を発信し、取り込んでいきたいですね。せつかく入会しただけなら利用しない手はありません。入会して何かを待たないでなく自らどんどん首を突っ込んでいくことでより協会が活性化させる事が出来るだろうと感じています。

私は茨城在住のために毎月の交流会になかなか参加できない状況ですが、今年には昨年に増してできるだけ多くの行事に顔を出したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



理事 渡辺新吉
(東京都)

JIA会員・渡辺新吉と申します。静岡県出身。東京の美術大学を卒業。しばらくは油彩で絵を描いておりましたが、その後偶然 染色という技法に出会い、着物などを製造している工房にて技法を学びました。今は、染色技法をひとつの画材として用いながら、作品を作っております。

染色工房が忙しい時期は、職人(の卵?)として 製造工程に従事する時もありました。その他には、印刷やデザインの分野にも片足を突っ込んでおります。この頃は、どういふわけか自分が実際に動かすよりも 企画とか編集とかディレクションのような立場に立たされる事が多いので、今日はイラストを発注する側の立場で感じた事など、つらつらと書いてみようと思います。

最初にクライアントから制作依頼をいただいた時点では、多くのことがまだ白紙の状態です。何度も会議を重ねながら具体的な形にしていけます。表紙などはコンペをする時もあります。この時、写真の方が良いか、イラストの方が良いか、または他の表現は無いのか?というところを逡巡します。大抵は、イラスト案と写真案は、最後まで戦う事が多いですね。

また、デジタル画像加工が発達してきますと、写真とかイラストとか、従来のカテゴリーに収まらない表現も出て来ました。私自身、現時点ではイラストレーターが大活躍するような案件とはまだ出会っていないのですが、将来的にJIAのような多くの作家さんが在籍する団体の存在が、とても頼りになると思います。



どのようなテイストで、どのようなタッチで、とweb上で拝見することができ、とても役に立ちます。

デザインをする上で、写真もイラストも 別々に独立している存在ではありませんが、骨格が9割方出来上がって初めてイラストレーターに発注するという参加の仕方もありますが、もう少し初期段階からデザインと同時進行で参加していただければ、デザインとの一体感も生まれますし、クオリティの高い表現が可能になると思います。企画段階から参加していただけたら最高です。あとはお金の問題ですかね。

JIAの協会の場でいただいた会員の皆様のA4チラシは、大切にファイルして日頃から持ち歩くようにしております。イラスト需要はいつ発生するか分かりませんが、たとえば、客先に訪問したとき、空いた時間に雑誌感覚で見ていただくのも有意義でしょう。

今JIAには全国から様々な技法やテイストの個性的な作家さんが集まっております。今年 私は恒例の花見にも参加出来ず!不義理を重ねておりますが、可能な限り交流会や展覧会に積極的に参加し、新しい作家さんと出会えるきっかけになれば良いなあと思います。webで作品を拝見しつつ、いつか実際に会ってみたい!と思う方が、何人もおります。どうぞ、皆様 健康にお気をつけて、ご活躍を期待しております。



理事長 蟹江隆広
(東京都)

一九九九年に日本イラストレーター協会を設立してから、はや九年になります。最初の頃は亀のように遅かった会員数の伸びもここ数年は加速度がついて伸びています。

二〇〇七年には百二十三名の方達が新たに入会して下さいました。二〇〇八年六月現在の会員数は三百二十名を超えています。会員数が千人を超えるのも数年先のことと予想しています。

会員数の伸びに比例して、日本イラストレーター協会の認知度も飛躍的に上がってきているように感じます。ネット上でも結構話題になってきているようです。

名実ともに日本を代表するイラストレーターの団体になったと言っても過言ではありません。

協会が主催しているイベントも年を重ねるごとに充実してきています。昨年は新たな試みとして、デザインフェスタにポスターカードで出展しました。今年は新たに東京国際ブックフェアに参加します。

これらの新たな試みは、私以外の理事が中心になって企画、実行しており、新しいパワーを感じます。特に今回の国際ブックフェアには百名を超える会員が参加しています。

大勢集まれば大きなことができます。将来的な目標としては、デザインフェスタくらいの規模のイベントを日本イラストレーター協会単独で開催できれば、と考えています。



日本イラストレーター協会のウェブに関しては、いろいろ見方もあると思いますが、今ところデザインは重要視していません。検索で上位に表示されることを考えて、作成しています。その為、アクセスもどんどん増えてきて、一日平均四千件以上のアクセス数を記録しています。

会員数の増加と日本イラストレーター協会の認知度アップに伴い、事務局の仕事も非常に忙しくなっています。

ウェブの更新などは、会員各自が自分で更新できるようにすればいいと考える方もいらっしゃるようですが、私はそうは思いません。そのようにすると、ミクシイのようなソーシャル・ネットワーク・サービスなどと同じようになってしまいます。事務局でいちいち画像やプロフィールもチェックして、アップロードしていくことで秩序が保たれますし、相互理解も深まります。

新規入会の会員と、毎年更新の会員ために、毎日のようにウェブを更新していますが、それでもだんだん追い付かなくなっています。

今年の取りあえずの目標としては、もう少し広い場所に事務局を移転し、協会の成長と共に事務局の規模も拡大していくことです。

二〇〇七年度 会計報告

(二〇〇七年一月一日～二〇〇七年十二月三十一日)

収入の部

売り上げ	13,542,868
年会費継続	954,000
コンペ入選者の入会	72,000
その他入会	1,221,000
コンペ出品料	672,500
協会展参加費	470,000
年鑑参加費	330,000
総収入	17,431,471

前年度より繰り越し 59,020円
来年度に繰り越し 552,771円
2007年度 新規入会者 123名
2007年度 退会者 21名
2007年 12月 31日 会員数 282名

支出の部

荷造運賃	64,100
水道光熱費	102,772
旅費交通費	64,370
通信費	162,155
広告宣伝費	520,785
接待交際費	295,524
損害保険料	19,980
福利厚生費	144,689
消耗品費	297,711
地代家賃	960,000
雑費	104,564
事務局人件費	2,400,000
理事報酬	150,750
アルバイト料	60,000
コンペ審査員報酬	75,000
コンペ賞金	480,000
イラストレーターに支払い	11,035,320
総支出	16,937,720

日本イラストレーター協会の歩み

- 一九九九年 四月 設立
- 四月 ホームページの開設
- 二〇〇一年 一月 J I A通信を開始
- 二〇〇〇年 六月 第一回イラストコンペ開催
- 十二月 年度賞の制定
- 二〇〇一年 六月 第二回イラストコンペ開催
- 十二月 二〇〇一年度賞
- 二〇〇二年 六月 第三回イラストコンペ開催
- 十二月 二〇〇二年度賞
- 二〇〇三年 六月 韓国出版美術協会と交流会を開催
- 六月 第四回イラストコンペ開催
- 十二月 二〇〇三年度賞
- 二〇〇四年 四月 J I Aのロゴを制作
- 六月 第五回イラストコンペ開催
- 十月 会員数が百名を突破
- 十二月 二〇〇四年度賞
- 二〇〇五年 三月 事務局を新宿区に移転
- 四月 認定証と会員証の発行開始
- 五月 第一回日本イラストレーター協会展
- 六月 第六回イラストコンペ開催
- 十二月 二〇〇五年度賞
- 二〇〇六年 一月 第一回会報発行
- 五月 第二回日本イラストレーター協会展
- 六月 第七回イラストコンペ開催
- 六月 第二回会報発行
- 十二月 二〇〇六年度賞
- 十二月 日本イラストレーター協会年鑑をCDで作成
- 二〇〇七年 一月 第二回会報発行
- 三月 第四回ZEN展に参加

- 二〇〇七年 五月 第二回日本イラストレーター協会展
- 六月 第八回イラストコンペ開催
- 六月 大阪で交流会(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)
- 十一月 第二十六回デザインフェスタに参加
- 十二月 二〇〇七年度賞

二〇〇八年イベント

- 一月 日本イラストレーター協会年鑑二〇〇八ダウンロード開始
- 交流会(新年会)
- 二月 二〇〇七年、年度賞の発表
- 交流会
- 三月 第五回ZEN展に参加
- 交流会
- 四月 新理事の就任
- 交流会(花見)
- 五月 第四回日本イラストレーター協会展
- オープニングパーティーと打ち上げ
- 六月 第四回会報発行
- 七月 第十五回東京国際ブックフェアに参加
- 第八回イラストコンペ開催
- 交流会
- 八月 第八回イラストコンペ受賞者展(おじゃら画廊)
- 交流会(納涼会)
- 九月 交流会
- 十月 交流会
- 十一月 交流会
- 十二月 二〇〇八年、年度賞の作品募集